

京	都	
日	本	画
2022	新	展

ごあいさつ

「京都懇談会」の提言を受け、若手日本画家の活動を奨励することを目的として2008年度に創設した「京都 日本画新展」。2013年度からの「続『京都 日本画新展』」と合わせて、10年以上にわたり作品の発表の場を提供してまいりました。現在、同展出品を経て、多くの作家が各方面で活躍しています。引き続き、日本画を志す若手作家とともに、京都ならではの日本画展を目指し、「京都 日本画新展」を開催いたします。

京都における日本画は「京都画壇」として数多くの日本画家を輩出し、また日本画の世界で育った人材は京都の美術・工芸・伝統産業を支えてきました。私たちは創造性あふれた若い人材の活動を奨励し、京都文化の発展に寄与することを目指しています。

本展では、大賞・優秀賞受賞作をはじめ、推薦委員から推薦を受けた20～40歳代の計33作家の秀作と、推薦委員の日本画家の新作を合わせて展覧いたします。

今後も「京都 日本画新展」が将来有望な若い作家たちにとって研鑽の場となり、また多様な展開を見せる現代日本画の新しい試みの一つとして、京都の日本画壇の一助となることを願っています。

2022年2月

主催者

Greeting

Based on the proposal of the Kyoto Advisory Panel, “The New Kyoto *Nihonga* Exhibition” was established in 2008 with the goal of encouraging the activities of younger generation of Japanese artists. Together with the sequel of “The New Kyoto *Nihonga* Exhibition” from 2013, we have provided an exhibition to showcase artwork for over 10 years. Currently, many artists are actively involved in various fields after participating in our exhibitions. We’d like to continue our exhibition together with the aspiring new generation of artists that is unique to Kyoto.

The Japanese arts through “Kyoto Art World” have groomed many artists that have supported the arts and crafts, as well as the traditional artistry of Kyoto. Our goal is to contribute to the development of Kyoto culture by encouraging the next generation of creative youthful artists.

In our exhibition, together with the Grand Prize and Excellence Award Winning Arts, we will exhibit the excellent artwork from a total of 33 artists in the age ranges of 20s to 40s, as well as the new Japanese artwork recommended by the panel.

We hope that our exhibition will continue to be the educational venue for potential young artists and that it will be the beacon of displaying the new attempts and the various development of contemporary Japanese artistry.

February 2022

The Organizer

「京都 日本画新展」について

「京都 日本画新展」は、日本画を志す若手作家たちが、生き生きと画を描くことを応援し、そして、その活躍の場を提供する目的で、2008年度に創設されました。

2013年度からは、「続『京都 日本画新展』」、そして、2018年度からは京都府、京都市、京都商工会議所が共催に加わり、「京都全体で取り組む」日本画の展覧会として継承しています。

本展への出品は推薦方式です。京都、滋賀、奈良、大阪の大学で日本画の指導にあたっている先生方に推薦委員を委嘱し、より幅広い視点で、より多様な若手作家を毎年、推薦いただいています。また、受賞作品の選考にあたっては、選考委員として、作家、評論家、学芸員などの方々をお願いし、多角的な視野から行っております。

出品の条件は、京都を中心に活動する、あるいは京都に縁のある、概ね20～40歳代の若手作家です。推薦委員により候補者を選定し、出品依頼を行います。

今年度は、33人の出品者に新作を制作していただきました。2021年11月19日に選考会を実施し、大賞1点、優秀賞2点、奨励賞(京都府知事賞、京都市長賞、京都商工会議所会頭賞)3点を選出しました。

本展では、受賞作品を含む33作品を展示。あわせて推薦委員7人の作品も展示します。引き続き、日本画を志す若手作家とともに、「京都 日本画新展」を展開していきます。

京都 日本画新展2022

会期：2022年2月11日(金・祝)～2月20日(日)

会場：美術館「えき」KYOTO

主催：西日本旅客鉄道株式会社、京都新聞

共催：京都府、京都市、京都商工会議所

協力：文化庁 地域文化創生本部

後援：京都府教育委員会、京都市教育委員会、KBS京都、エフエム京都

〔推薦委員〕

石 股 昭 (奈良芸術短期大学教授)

雲丹亀利彦 (京都精華大学教授)

大 沼 憲 昭 (嵯峨美術大学教授)

川 嶋 涉 (京都市立芸術大学教授)

菅 原 健 彦 (京都芸術大学教授)

西久松吉雄 (成安造形大学名誉教授)

村 居 正 之 (大阪芸術大学教授)

〔選考委員〕

太田垣 實 (美術評論家)

國賀由美子 (大谷大学文学部教授)

野地耕一郎 (泉屋博古館東京館長)

畑 智 子 (京都文化博物館特任学芸員)

森 口 邦 彦 (友禅作家、重要無形文化財保持者)

山 田 諭 (美術史家)

※いずれも五十音順、敬称略

目次

ごあいさつ 2

「京都 日本画新展」について 4

コロナ禍での「京都 日本画新展2022」の審査を終えて 山田 諭 ... 6

図版 9

推薦委員 図版 77

出品リスト 93

選考によせて 95

太田垣 實 96

國賀由美子 97

野地耕一郎 98

畑 智子 99

森口邦彦 100

コロナ禍での「京都 日本画新展2022」の審査を終えて

山田 諭

明治以来、数多くの日本画家を輩出してきた京都画壇において、若手日本画家の活動を奨励することを目的とした「京都 日本画新展」が、コロナ禍で4回目の開催を迎えた。主催者にとっても、出品作家にとっても、極めて厳しい状況が続くなかで、開催を実現されたことに心から敬意を表したい。

コロナ禍が始まった2020年の冬からまもなく2年を経ようとしている現在(審査の終わった11月下旬)、日本では感染拡大が沈静化して、社会は落ち着きを取り戻しつつあるが、世界では感染爆発が続いている地域も多い。新たな変異株も発見され、日本でも第6波の到来が警戒されている。

いま思い起こせば、昨年も第2波から第3波の中で開催された。当時は、日常生活における新しい行動様式が模索されながら、医療体制の整備もワクチン接種も進まず、ひたすら「自粛」生活が強られる状況にあった。美術大学の休講や閉鎖、展覧会の中止や延期が相次ぎ、若い作家たちは友人や家族にも会えないなかで、否応なく作品(すなわち自己)と向かい合う時間が増えたことによって、出品作品(とくに受賞作)の画面には作品制作の充実感が現れていた。

ところが、今回の審査会場を一望したとき、どこか「沈鬱」な雰囲気と先の見えない「不安」が漂っているのを感じた。

まず、審査経過を報告すると、出品作品(33点)から第1回投票(選考委員6名/各10票)において9点を選定。第2回投票(各3票)で5点に絞り込み、第3回投票(各1票)で大賞を決定。大賞を除く4点から第4回投票(各2票)により優秀賞2点、奨励賞(京都府知事賞、京都市長賞)を決定。第2回投票から復活させた2点から第5回投票(各1票)により奨励賞(京都商工会議所会頭賞)を決定。

基本的には選考委員による投票を踏まえた審査結果となり、作品について深く論議する機会は少なかった。その根本的な理由は、出品作品の完成度における明らかな格差である。第1回投票において、0票が7点、1票が11点、2票が6点(総計24点)であった。厳しい言い方になるが、作家としての自己表現のための絵画技法において未熟な作品が散見されるのである。このような結果に、長く続くコロナ禍で制作に集中できない「疲労感」のようなものを感じられた。

日本画において絵画表現の基礎としての技術と技法は必須の課題である。何を描くのか、描くための技法は何か、どのような技術が求められるのか。長く時間のかかる探究と習得によってしかない根気のいることであるが、新しい日本画の創造のためには不可欠である。このような意味において、受賞作家たちは作品制作における自己の絵画表現を確立していた。

ここから受賞作について、私が感じたことを書きたい。

まず大賞となった野上徹《ゆらぎの光景》は、揺らぐ水面に映る影像と映像が重なり合う複雑な

空間を平面的に描いている。綿密な計算による丁寧な描写を重ねた絵画表現は完成度が高い。「変容する社会から取り残されたように描き続ける自分に戸惑いはない。…滲む絵具の片隅に『何か』が宿ればいい」という作家の言葉には、暗闇の中を歩もうとする覚悟が感じられる。ただ画題となっている水面に反映する空間表現はどこかで見慣れた在り来たりの感はある。

優秀賞の沈楠《松明・余煙》は、消されたばかりの松明から湧き立つように渦巻く煙を描いている。深い青と緑の色感を生かした油彩画を思わせる描写のなかに、硬い筆による勢いのある描線を加えることで、燃え盛る炎のエネルギーを残した煙が暗闇に沈んでいく光景が現れるが、どこか「沈鬱」な雰囲気が漂っている。日本画による自然描写としては新しい表現を感じた。

もう一つの優秀賞の三谷佳典《夜の隙間》は、世界地図が浮かぶ壁の前にうつむきながらたたずむマスクの女性を描いている。画面の外から飛んできた紙飛行機は何を伝えているのか。コロナ禍の閉塞感に押しつぶされそうになりながらも、「私たちは、どこに立っているのか」と問いかける作家の言葉には、現在の苦難に真正面から向き合おうとする意志を感じた。

奨励賞・京都府知事賞の田口涼一《Sound of Silver-秋天-》は、写真のように細密に枯れた樹木のシルエットを重ねて、作家の言葉の通り「秋空が持つ儂さ、うたかたの美しさ」を描いているが、どこか「虚しさ」も感じさせる。伝統的な日本画の古くからの画題と技法による完成度の高い作品ではある。

もう一つの奨励賞・京都市長賞の山部杏奈《麒麟の花》は、陽光の射し込む窓辺に置かれたハナキリンの花瓶を描いている。青から白へ変化する垂直のグラデーションによる空間構成が美しい。日本画の伝統にはない西洋絵画の「静物画」を連想させる。「自分に最も近い場所である、自宅の風景」を、静謐な光の充満する聖なる空間に変貌させることのできる作家にとって、コロナ禍のステイホームは何の支障もないかもしれないが、どこか「寂しさ」も滲ませていた。

最後に、奨励賞・京都商工会議所会頭賞の丹羽優太《鹿鯨瀑布図》は、作家の言葉によると、「欧米の思想を象徴」する黒い滝の中で、「地震を起こす…鯨」を押さえ込む「鹿島神宮の神使」の白鹿を描いている。手慣れた筆技による表現で描かれた完成度の高い作品は、江戸時代に流行した判じ絵に倣いつつ、現代日本の危機的な状況を伝えているが、いささか図式的にも感じられた。

このように「京都 日本画新展2022」の多様な画題と表現による受賞作は、コロナ禍にある現代日本の状況を何らかの形で反映していた。現在を生きている若い作家が現在の自己を描いていることの証明であるとともに、新しい日本画の創造への可能性を感じさせてくれるものでもあった。

(美術史家)

野上 徹 のがみ とおる / NOGAMI Toru



- 1977 奈良県に生まれる
- 2001 臥龍桜日本画大賞展(岐阜県美術館他 同05、18、21年)
- 2003 大阪芸術大学大学院芸術制作研究科修士課程修了
第48回大阪美術協会展 精励賞(大阪市立美術館)
- 2004 春季創画展 入選(同05~07、09~13、15~21年 09、10年春季展賞)
創画展 入選(同05~07、09~19年、14、16年奨励賞)
- 2007 個展(同10~13、15、16、18、19、21年)
- 2011 日本画UNISON(ギャラリーSHIMA/兵庫 同12~15年)
- 2012 上野の森美術館大賞展(上野の森美術館/東京他 同13~15年)
- 2013 第5回 京都 日本画新展(美術館「えき」KYOTO)
- 2014 京都日本画家協会第2期展 奨励賞(京都文化博物館)
- 2015 第2回 続 京都 日本画新展(美術館「えき」KYOTO 同17年)
- 2017 日本画8人展—いまのいま—(京都市勧業館みやこめっせ 美術工芸ギャラリー)
続 京都 日本画新展×京都茶寮(京都駅ビル京都茶寮)
- 2019 京都 日本画新展 in 二条城~100人の画家・嵯峨野線を旅して~(二条城二の丸御殿台所・御清所/京都)
いまのいま—見渡す絵画—(原田の森ギャラリー/兵庫)
- 2020 現代の日本画—世代をつなぐ—(ギャラリーヒルゲート/京都)
- 2021 いまのいま 現を辿る 夢に触れる(神戸アートビレッジセンター/兵庫)
未景2021—御寺・ART・いのり—あかるい水になるように(泉涌寺/京都)

◎本展出品作について作家より

人との繋がりが緊密である人ほどCOVID-19の猛威はこたえたのだろうか。変容する社会から取り残されたように描き続ける自分に戸惑いはない。面相筆でひとつひとつ、レイヤーを重ねるように形を紡ぎ出していく。形が形をよび構築された画面のゆらぐ光景と、滲む絵具の片隅に「何か」が宿ればいいと思っている。



沈 楠 しんなん／SHEN Nan

- 1993 中国湖北省に生まれる
2015 湖北美术学院水彩画専攻卒業(中国)
2019 京都市立芸術大学留学生展第29回(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA／京都 同20、21年)
2021 京都市立芸術大学大学院美術研究科日本画専攻修了
「同時代展—想像力との出逢い—」(同時代ギャラリー／京都)
「禁色—Forbidden Colour—」(GALLERY ART POINT／東京)

現在 京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程日本画領域在籍



◎本展出品作について作家より

木をいつもモチーフとして描いているけれど、木自体より木が受容される空間に満ちる風の流動感を表すことによる「開かれる絵」に関心がある。木の輪郭は土台を支えて、空間の一部的なものにとどめられている。木と煙の輪郭が現れたり消えたりすることによって消えるときに際立ってくるものがあるという感覚を重視している。



三谷 佳典 みたによしのり / MITANI Yoshinori



- 1987 北海道深川市に生まれる
2009 日展 入選(以後毎年出品)
2010 日本画4人展(小丸画廊/大阪)
師走展(以後毎年出品 小丸画廊)
日春展 入選(以後毎年出品)
2011 大阪芸術大学大学院修士課程修了
2012 上野の森美術館大賞展 賞候補(上野の森美術館/東京)
2013 日本画5人展(京都東急ホテル)
2014 「初代会」(以後毎年出品 小丸画廊)
2016 「日本画—今という時代—」(大阪高島屋)
2017 第1回新日春展 奨励賞(以後毎年出品)
2019 第18回サッポロ未来展 大丸札幌店賞(札幌文化芸術交流センター/北海道)
改組新第6回日展 特選
2020 京都 日本画新展2020(美術館「えき」KYOTO)
「内緒の記憶」三谷佳典日本画展(札幌大丸/北海道)
札幌ミュージアム・アート・フェア(札幌芸術の森美術館/北海道)
2021 第10回菅橋彦大賞展 佳作第三席(倉吉博物館/鳥取)

現在 日展会友
新日春会会友

◎本展出品作について作家より

私たちは、どこに立っているのか。

未曾有の災禍に、今後の生活をどう構想していきべきなのか。

先の見えない状況で、光が見えたり、また消えたり。

誰もが、もがきながら探している。



優秀賞 夜の隙間 Gap in the Night

田口 涼一 たぐち りょういち / TAGUCHI Ryoichi



- 1981 大阪市に生まれる
2003 創画展 初入選(同04、06~08、10~21年)
2006 春季創画展 初入選(同08~21年)
2011 京都精華大学大学院芸術研究科博士後期課程修了 博士号取得
『日本画における金属箔と新変色技法を使用した表現の可能性』
2012 京都府美術工芸新鋭展招待部門 大学推薦(京都文化博物館)
第4回 京都 日本画新展(美術館「えき」KYOTO)
2014 京都日本画家協会第2期展 奨励賞(京都文化博物館 同16、19年)
2017 「春を待つ—梅—」(ギャラリー恵風/京都)
2019 京都 日本画新展2019(美術館「えき」KYOTO)
京都 日本画新展 in 二条城~100人の画家・嵯峨野線を旅して~(二条城二の丸御殿台所・御清所/京都)
2020 50人の日本画サムホール展—希望のひかり—(ギャラリー恵風)
2021 個展「田口涼一展—Sound of Silver—」(ギャラリー恵風)

現在 創画会会友
京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より

『晴るるかと思へばくもる秋の空うき世の人の心知れとや』良寛
秋空はその移り変わりやすい様を人の心に喩え、古来多く歌われています。
そのような秋空をモチーフとし、銀箔の焼き色を中心に制作しました。
秋空が持つ儚さ、うたかたの美しさを感じ取って頂ければ幸いです。



山部 杏奈 やまべ あんな / YAMABE Anna

- 1996 京都市に生まれる
2019 京都市立芸術大学美術学部美術科日本画専攻卒業
京都銀行美術研究支援制度により作品買い上げ
個展 (ALC Library & Gallery / 京都 同20年)
2021 京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻修了
個展 (LADS GALLERY / 大阪)
個展 (ギャラリー恵風 / 京都)



◎本展出品作について作家より

私は自分に最も近い場所である、自宅の風景をモチーフに制作してきました。
日の当たる布のある窓辺と、そこにある植物が生む空間を画面につくり出すことを目指しています。
本来の自宅の一角が持つ奥行きから離れ、それでも尚ごく個人的な美しさを持って広がるその光景は、私にとって最も魅力的な対象の一つです。



奨励賞・京都市長賞 麒麟の花 KIRIN NO HANA

丹羽 優太 にわ ゆうた / NIWA Yuta

- 1993 神奈川県横浜市に生まれる
- 2015 ジュネーヴ造形芸術大学交換留学
画心展(佐藤美術館/東京 同16~18年)
- 2017 京都造形芸術大学美術工芸学科日本画コース卒業
アートアワードトーキョー丸の内2017 入選(新東京ビルディング 同19年ゲスト審査員賞)
DEP/ART KYOTO(大丸京都店)
- 2018 Kyoto Art for Tomorrow - 京都府新鋭選抜展2018 朝日新聞社賞(京都文化博物館)
クマ財団2期奨学生
公益財団法人佐藤国際文化育英財団奨学生
日本文化芸術財団奨学生
- 2019 京都造形芸術大学修了作品展 大学院賞(京都芸術大学)
京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術専攻ペインティング領域修了
KUAD ANNUAL 2019 宇宙船地球号(東京都現代美術館)
KUMA EXHIBITION 2019(スパイラルガーデン/東京)
クマ財団3期奨学生
- 2020 京都 日本画新展2020(美術館「えき」KYOTO)
やんばるアートフェスティバル 山原知新(大宜味村立旧塩屋小学校/沖縄)
- 2021 個展「なまずのこうみょう」(東福寺塔頭光明院/京都)
個展「PAINT IT BLACK」(ARTDYNE/東京)



◎本展出品作について作家より

太古より、日本には大鯰が地中に潜み、地震を起こすとされてきた。一方、茨城県の鹿島神宮にはその鯰を抑える要石が祀られている。そして鹿島神宮の神使は白鹿。対となる二体を描いた。

また、黒い滝は欧米の思想を象徴している。文明開化とともに戦後に欧米の思想が流れこみ、高度経済成長期には多くの発展を遂げた。しかし近年災害が増え、欧米の思想のもとに造られたシステムは限界が出始め、様々な綻びが生まれているのではないか。



奨励賞・京都商工会議所会頭賞 鹿鯰瀑布図 Deer and Ōnamazu in the Waterfall

井関 律葉 いせき みちよ / ISEKI Michiyo



- 1992 大阪市に生まれる
- 2015 京展 入選
京都市立芸術大学卒業
- 2016 上野の森美術館大賞展 入選(上野の森美術館／東京、京都文化博物館)
京都春季創画展 入選(同18、21年)
- 2017 朝日新聞厚生文化事業団主催 Next Art 展(松屋銀座／東京)
日本画三人展「傍らに立つ」(ギャラリー恵風／京都 同18年)
京都市立芸術大学大学院日本画専攻修了
- 2021 個展(ギャラリー恵風)

◎本展出品作について作家より

『文選』の中で歌われた「何ぞ燭を乗りて遊ばざる」の一節を、李白は桃李園での宴の詩の中で引用しました。夜の長さを憂うのではなく、灯りをともして夢のように流れていく「今」を惜しみ抗うこと、形を変えて同じ事を表現したいと筆をとりました。



秉燭夜遊 Play at Night with a Candle

出口 雄樹 いでぐち ゆうき / IDEGUCHI Yuki

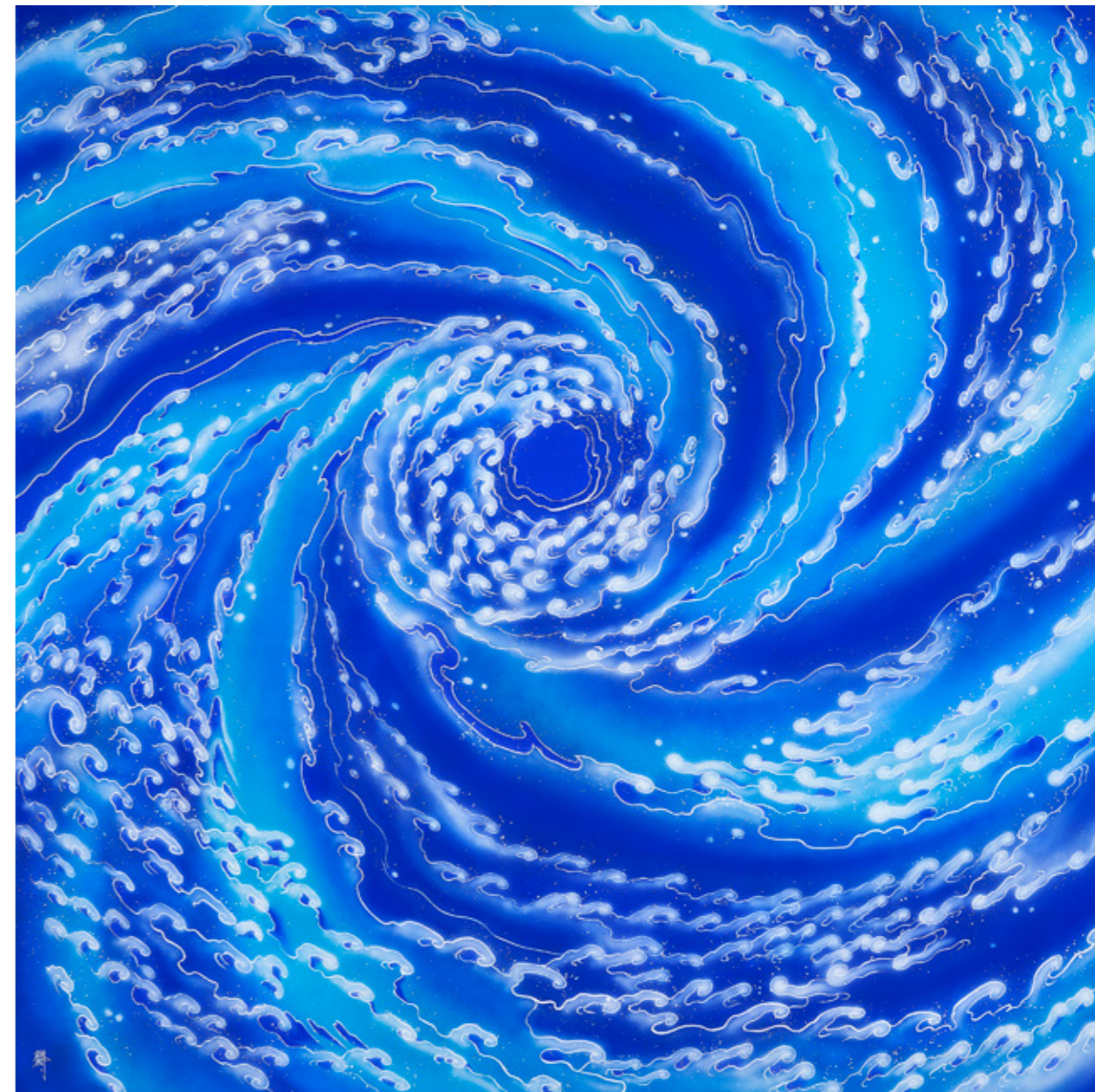


- 1986 福岡県に生まれる
- 2013 ニューヨークを拠点に活動(～19年)
- 2014 INDIA - JAPAN ASSOCIATE ART EXHIBITION (STUDIO ART GALLERY / ニューデリー)
- 2015 個展「WAVE - LIFE AND DEATH」(Chinese American Arts Council / ニューヨーク)
Exposition Contemporaine d'artistes Japonais (Galerie Etienne de Causans / パリ)
Jecoration-Decorative Expressions of Japanese Art and Their Influences (J-labo / ニューヨーク)
- 2016 個展「Vortex」(RESOBOX / ニューヨーク)
個展「at AArt」(上海衡山路十二号豪華精選酒店 / 上海)
- 2017 個展「Waterfronts」(RESOBOX Chelsea / ニューヨーク)
Collective Memory Yuki Ideguchi & LuLu Meng (青雲画廊 / 台北)
CONTEMPORARY TALENTS OF JAPAN 2017 (Ronin Gallery / ニューヨーク)
- 2018 出口雄樹展—水天一碧—(日本橋三越本店 / 東京)
Evolving Traditions - Paintings of wonder from Japan, curated by Yuki IDEGUCHI (Japan Information and Culture Center / ワシントンD.C.)
- 2019 「-NY・TRN・TYO-NEXT STAGE Exhibition 注目の海外在住アーティスト 山口歴 / 櫻井伸也 / 出口雄樹」(銀座三越 / 東京)
- 2020 出口雄樹展—見所透徹—(名古屋松坂屋 / 愛知)
出口雄樹展—Still Alive—(新宿高島屋 / 東京 21年 京都高島屋)
出口雄樹展—弘暁—(大丸天神店 / 福岡)
- 2021 出口雄樹展—Art is Inside You—(西武アート・フォーラム / 東京)
個展「Plop Hokusai Manga × Yuki IDEGUCHI」(日本橋三越本店)

現在 京都芸術大学専任講師

◎本展出品作について作家より

力強い青と胡粉、日本絵画的な線とデフォルメを用い、渦巻きと波濤を表現した。京都に越す以前は、NYを拠点に世界中で作品を発表し、特に欧州では北斎の継承者の一人として評価を頂いている。その経験を活かし、日本の絵画技法や表現を参照しながらも、21世紀を代表する波の表現となることを目指し、本作を描いた。



The Eddying Current

及川 美沙 おいかわ みさ / OIKAWA Misa



- 1986 京都市に生まれる
2010 日展 入選(同13年)
2011 日春展 入選(同12、14、15年)
京展 入選(同13~16年)
2012 松柏美術館花鳥画展 入選(同14、15年)
京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程修了
全関西美術展 第一席(大阪市立美術館)
2015 改組新日展 入選(同16、18~20年)
京都日本画家協会第3期展(京都文化博物館 同18年)
京都芸術祭美術部門 国際交流総合展 京都府知事賞(京都市美術館)
2018 新日春展 入選(同19、21年)
個展(生活あーと空間ばるあーと/京都)
2019 SUIT×及川美沙二人展(ポルタギャラリー華/京都)
2020 京都 日本画新展2020(美術館「えき」KYOTO)
2021 漆×陶×画三人展(ポルタギャラリー華)

現在 京都日本画家協会会員
新日春会会友

◎本展出品作について作家より

この数年で世界の状況が変化し、自分のまわりの“あたりまえ”を見直す機会となりました。私がモチーフとしている大山椒魚は、神にも妖怪にも表現される生き物です。それは、子どものような無垢な姿と、出会った時に感じる絶対的な尊さからだと思っています。その近くて遠い、手が届きそうで届かない空気を描きました。



あやかしの大山椒魚 Mysterious Giant Salamander

大木 万由 おおき まゆ / OHKI Mayu

- 1997 愛媛県今治市に生まれる
- 2017 奈良芸術短期大学日本画コース美術科卒業
- 2019 新日春展 入選
- 2020 奈良芸術短期大学日本画コース専攻科修了
- 2021 京都 日本画新展2021(美術館「えき」KYOTO)



◎本展出品作について作家より

どうにもできない心の内もすべて攫っていってくれるような、広く懐かしい景色がある。そこにある緊張感と時間を忘れられるような安堵を何度も思い出しながら描いた。右手に続く景色も今後描く機会があればと思う。



大槻 拓矢 おおつき たくや / OTSUKI Takuya

- 1989 奈良県橿原市に生まれる
- 2018 WONDER SEEDS 2018 入選(トーキョーアーツアンドスペース本郷/東京)
碧い石見の芸術祭2018 第4回石本正日本画大賞展(浜田市立石正美術館/鳥根)
第27回臥龍桜日本画大賞展 入選(高山市民文化会館/岐阜)
京都銀行美術研究支援制度2018年度購入作品選抜
- 2019 第37回上野の森美術館大賞展 賞候補(上野の森美術館/東京)
たとえばここに飾るとして(米原市醒井宿資料館/滋賀)
シェル美術賞展2019 学生特別賞(国立新美術館/東京)
FACE展2020 入選(SOMPO美術館/東京)
- 2020 京都市立芸術大学大学院修士課程美術研究科絵画専攻日本画修了
- 2021 Kyoto Art for Tomorrow 2021—京都府新鋭選抜展(京都文化博物館)
京芸 transmit program 2021(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA/京都)



◎本展出品作について作家より

風景や物の写生、古画の模写を行い、そこから得た像を画面に描いていきます。その過程で形を描き写したり、転写した線をなぞったりと、像を模倣するための行為を何度も繰り返します。そうして描かれた像は画面の中に点々と配され、空間を形作っています。



なまくらな圏域 Buggy Range

開藤 菜々子 かいとう ななこ / KAITO Nanako



- 1990 東京都江戸川区に生まれる
- 2012 碧い石見の芸術祭2012 全国美術大学奨学日本画展(三隅中央会館／島根 同14年)
- 2014 大阪芸術大学芸術学部美術学科日本画コース卒業
- 2015 佐藤太清賞公募美術展 入選(京都／同16年福知山市長賞、同17年佐藤太清賞)
- 2016 大阪芸術大学大学院芸術研究科芸術制作専攻前期課程修士修了
塚本学院交友会会長賞、大阪芸術大学学長表彰
- 2017 日本の絵画2016 入選(銀座永井画廊／東京)
SICF(スパイラルホール／東京 同18、19年)
第63回全関西美術展 入選(大阪市立美術館)
第7回トリエンナーレ豊橋星野真吾賞展 入選 審査員推奨佐藤道信(豊橋市美術博物館／愛知)
ヤングクリエイターズアワード2017 優秀賞・加藤義夫審査員賞(MI Gallery／大阪)
DOJIMA RIVER AWARDS 2017—NUDE— 佳作(堂島リバーフォーラム／大阪)
- 2018 第20回記念雪梁舎フィレンツェ賞展 優秀賞(雪梁舎美術館／新潟 同19年 20、21年佳作)
第27回臥龍桜日本画大賞展 入選(高山市民文化会館／岐阜)
美の起原展 奨励賞(銀座画廊・美の起源／東京 同19、20年入選)
- 2019 アートオリンピック2019 佳作(東京都美術館)
京都 日本画新展2019(美術館「えき」KYOTO 同21年)
ART OSAKA 2019(ホテルグランヴィア大阪)
第37回上野の森美術館大賞展 入選(上野の森美術館／東京)
- 2020 個展「開藤菜々子展」(GALLERY ART POINT／東京)
3331 ART FAIR (ARTS CHIYODA 3331／東京)
個展「いろはに」(gekilin.／大阪)
第1回三越伊勢丹・千住博日本画大賞展 入選(日本橋三越本店／東京)

◎本展出品作について作家より

風化していくものの刹那的な美しさを表現するため日本画材の箔を用いています。時間経過による素材自体の変化を取り入れることで、共に時を刻む作品を表現しています。



梶川 友里 かじかわ ゆり / KAJIKAWA Yuri

- 1995 鳥取市に生まれる
- 2018 日展 入選
- 2019 京都精華大学芸術学部造形学科日本画専攻卒業
個展(恵文社一乗寺店ギャラリーアンフェール/京都)
- 2020 3人展(ちいさいおうち/京都)
- 2021 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程日本画専攻修了



◎本展出品作について作家より

目の前にあるものが実際に手に取れるか、触れるまで誰にもわかりません。

1番近くに見えたそれは実は幻想で1番奥にあるものこそのみがリアルなのかもしれません。

しかしリアルのみが有るとも言い切れない。

確かにそこには存在しています。



川上 歩 かわかみ あゆみ / KAWAKAMI Ayumi

- 1998 大阪府豊中市に生まれる
2017 グループ展「目線」(嵯峨美術大学 / 京都)
2018 嵯峨美術大学日本画制作展「守破離-Shu・ha・ri-」(アートスペース嵯峨 / 京都
同19年)
グループ展「目線 壺」(嵯峨美術大学)
2019 グループ展「目線 式」(嵯峨美術大学)
2020 第48回制作展 同窓会賞(嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学)
嵯峨美術大学芸術学部造形学科日本画・古画領域卒業
2021 京都 日本画新展2021(美術館「えき」KYOTO)



◎本展出品作について作家より

緑地公園内にあるほとんど手入れされていない温室のような建物です。何も珍しいものはないと知っているのに、なぜか行くとび中を通して、幼い頃からの癖が抜けません。



北川 咲 きたがわ さき / KITAGAWA Saki



- 1995 京都府京田辺市に生まれる
2017 二人展「いろんなもの展」(京都市立芸術大学)
2018 日展 入選(同19年 20年京都展京都新聞賞)
2019 京都市立芸術大学作品展 奨励賞
京都市芸術大学美術学部日本画専攻卒業
美術大学 in Kyoto 交流展(Gallery Little House / 京都)
碧い石見の芸術祭2019 第5回石本正日本画大賞展(浜田市立石正美術館 / 島根)
2020 第38回上野の森美術館大賞展 入選(上野の森美術館 / 東京、京都文化博物館)
KIZUNA 2020 —アートの力美術館支援プロジェクト—(GALLERY ART POINT / 東京)
2021 Vigor 2021 / GALLERY ART POINT 推薦作家美大選抜展(GALLERY ART POINT)
京都市立芸術大学大学院美術研究科日本画専攻修了
三人展(- Art Branding Café - SUI東山 / 京都)
新日春展 入選
伶展「白」(芝田町画廊 / 大阪)
第3回安曇野涼風扇子展(安曇野市豊科近代美術館、周岳山宝蔵寺 / 長野)
第28回臥龍桜日本画大賞展 入選(高山市民文化会館 / 岐阜)

◎本展出品作について作家より

日常に寄り添う身近な風景、何気ない形が重なり生まれる心地良い集合体、それらがいくつも寄り合って生まれた自然の量感、存在感に心を掴まれます。

今回の作品は、制作部屋の窓から見える生垣がモチーフです。陽が射すと、寄り合う木々の形がより魅力的に映ります。



寄り合う形 Clump

喜多 美月 きた みつき / KITA Mitsuki



- 1999 奈良市に生まれる
- 2015 奈良県ジュニア美術展覧会 入選(奈良県文化会館)
- 2020 第19回佐藤太清公募美術展 福知山市長賞(市民交流プラザふくちやま、福知山市厚生会館/京都)
- 2021 大阪芸術大学卒業制作展 学長賞
大阪芸術大学芸術学部美術学科卒業
「混ざり合う刻の色を」(ギャラリーSubaru/大阪)
心齋橋ギャラリービル オープニング展「nine doors」(心齋橋ギャラリー/大阪)
「夏の0号展」(ZINE gallery/京都)
「石フェス! 2021」(JITSUZAISEI/大阪)
関西美術大学選抜対抗展(大阪高島屋)

©本展出品作について作家より

内側と外側の間にはネガティブでもポジティブでもない者が存在する。この子を庇って素直になれず、この子に媚びて照れ隠しをし、この子に恥じぬよう言葉を選び、この子が震えて感動する。そしてその子はいつも変顔をしている。



変顔のともだち HENGAO NO TOMODACHI

佐久間 彩 さくま あや / SAKUMA Aya

1988 千葉県市原市に生まれる

2011 京都造形芸術大学美術工芸学科日本画コース卒業
グループ展「ZOU—日本画 or Not—」(海岸通ギャラリーCASO / 大阪)

2012 碧い石見の芸術祭2012 全国美術大学奨学日本画展(三隅中央会館 / 島根)
グループ展「ZOU—日本の絵—」(ギャラリーマロニエ / 京都)

2013 京都造形芸術大学大学院日本画コース修了
グループ展「画心展」(佐藤美術館 / 東京)

2020 個展「佐久間彩展」(ギャラリーヒルゲート / 京都)
50人の日本画サムホール展—希望のひかり—(ギャラリー恵風 / 京都)

2021 菅橋彦大賞展(倉吉博物館 / 鳥取)



◎本展出品作について作家より

昼間の光は強すぎて目が痛むことすらあるが、夜間に目にする光はどれも安らぎを与えてくれる。光源は上にあっても下にあっても重要なものだけを浮かび上がらせ、一対一での対話の空間をつくってくれる穏やかで貴重な光だと考え制作しました。



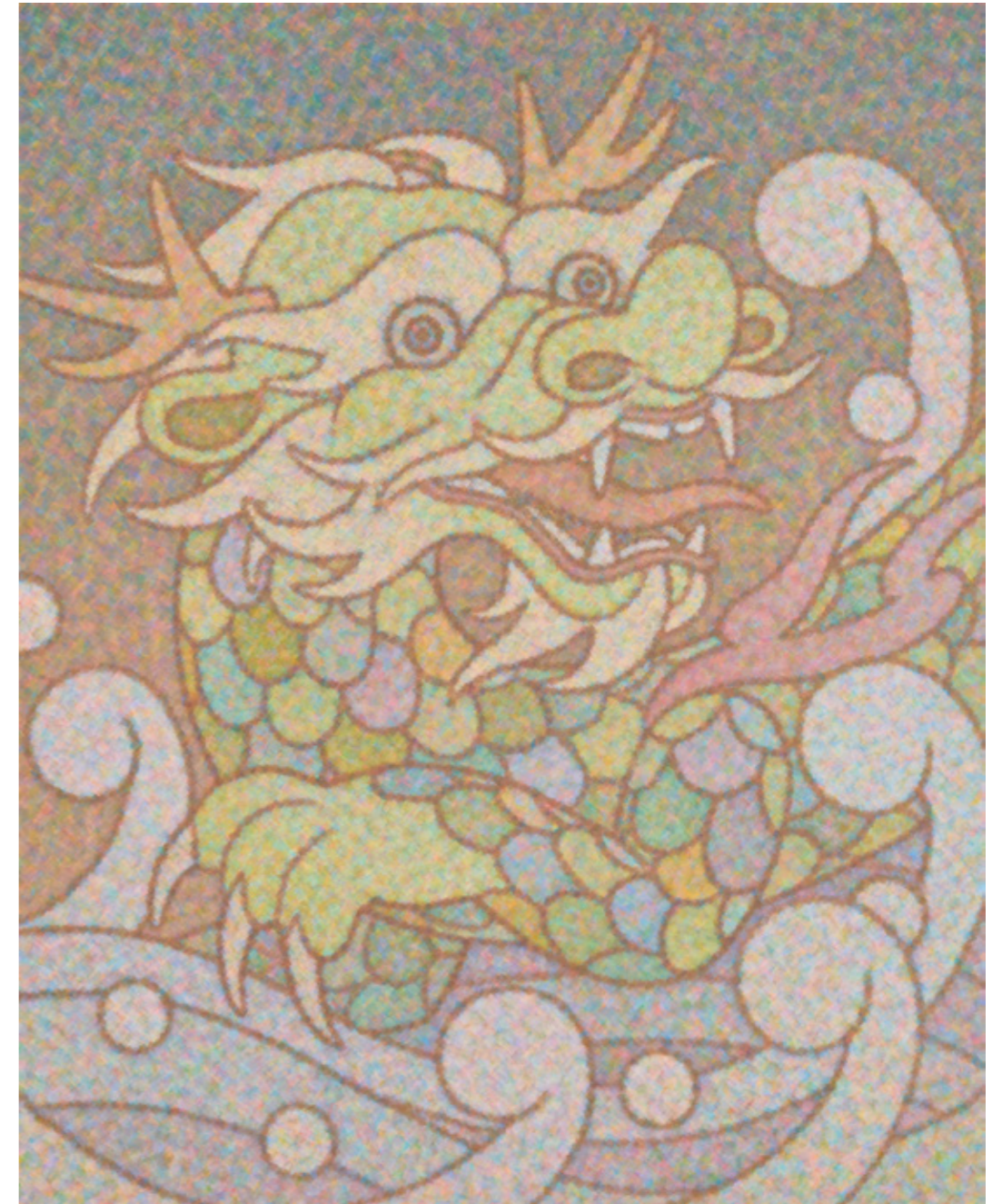
夜光 Luminous

佐竹 龍蔵 さたけりゅうぞう / SATAKE Ryuzo

- 1987 高知県四万十市に生まれる
2011 VOCA 2011(上野の森美術館 / 東京)
2014 京都府美術工芸新鋭展 毎日新聞社賞(京都文化博物館)
2015 個展「あめかぜひと」(かるぽーと / 高知)
2016 個展「ちいさなものたち」(YOD Gallery)
個展「あのひと」(アートスペース虹)
2017 京展 館長奨励賞
個展「北山の河童は鹿の角が怖い」(ギャラリー・オーブ / 京都)
滞在制作・個展(關渡美術館、1 1/2F Gallery / 台北)
第7回トリエンナーレ豊橋星野真吾賞展 入選(豊橋市美術博物館 / 愛知)
2019 京都 日本画新展2019 奨励賞(美術館「えき」KYOTO)
2020 FACE2020 入選(損保ジャパン日本興亜美術館 / 東京)
2021 個展「2020年の亡霊、溝を埋めろ。」(MEDIA SHOP / 京都)
個展「ともだち」(長亭GALLERY / 東京)



©本展出品作について作家より
夜明けに踊る龍の姿を描きました。



Dancing in the Dawn

田尾 桜 たお さくら / TAO Sakura



1996 滋賀県草津市に生まれる

2017 アトリエオクハシ収穫祭「Harvest Moon」(白雲館 / 滋賀 同18、19年)

2018 嵯峨美術大学日本画制作展「守破離-Shu・ha・ri-」(アートスペース嵯峨 / 京都 同19年)

2020 第48回嵯峨美術大学卒業制作展 芸術学部賞(嵯峨美術大学 / 京都)
嵯峨美術大学芸術学部卒業

2021 京都 日本画新展2021(美術館「えき」KYOTO)

碧い石見の芸術祭2021 第6回石本正日本画大賞展(浜田市立石正美術館 / 島根)

2022年京都信用金庫卓上カレンダー原画制作参加

現在 嵯峨美術大学大学院芸術研究科在籍

◎本展出品作について作家より

大学の庭にある酔芙蓉の花は今年も美しい。

初めて酔芙蓉を描いた2年前の記憶が懐かしくも鮮明に思い出される。花も人も次々と表情を変え変化し続ける。儂いからこそ記憶に留めたく思うのかも知れない。寄り添うように大切に见守ってくれているかと思えば、素っ気なく他人のように涼しい顔をしていたりもする。そんな酔芙蓉の花を眺めていると様々な事が浮かんで消えていく。



高畑 彩佳 たかばたけ さやか/TAKABATAKE Sayaka

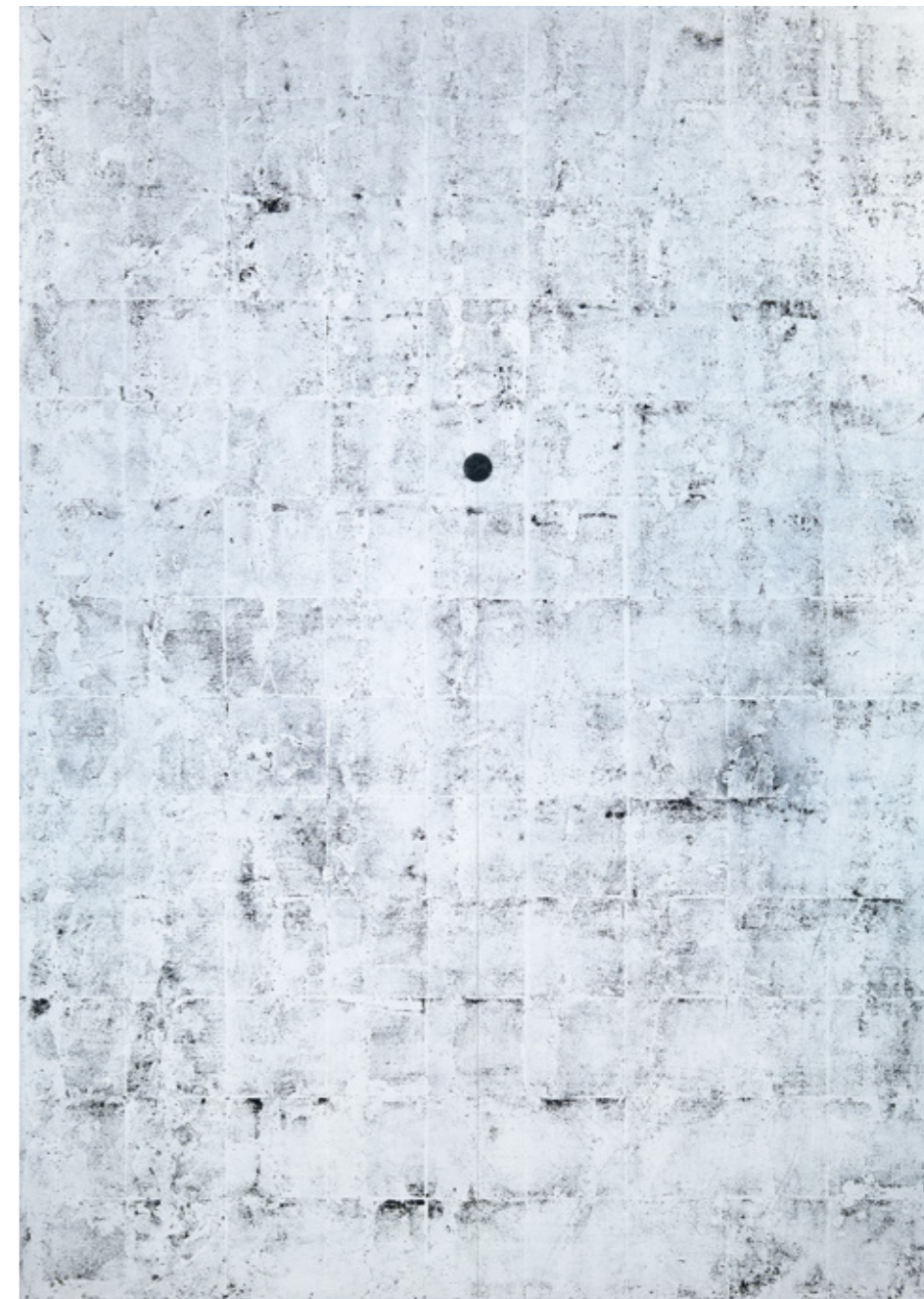


- 1995 香川県丸亀市出身
- 2016 画心展2016(佐藤美術館／東京 同17、18年)
- 2018 京都造形芸術大学美術工芸学科日本画コース卒業
京都造形芸術大学卒業制作展 奨励賞(京都造形芸術大学)
アートアワードトーキョー丸の内2018(国際ビル／東京)
302展(Art Space-MEISEI／京都 同19年)
個展「象牙の塔」(丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／香川)
個展「ちいさな塔」(秋寅の館まちの駅ギャラリー／香川)
- 2019 クマ財団3期奨学生
- 2020 京都造形芸術大学大学院修士課程ペインティング領域修了
京都造形芸術大学大学院修了展(京都造形芸術大学ギャラリーオーブ)
個展「全て有るところに何も無く、何も無いところに全て有る」(DiEGO表参道／東京)
個展「光を刻む」(arton art gallery／京都)
「現代アートと出会う日 at hotel koe tokyo」(KOE／東京)
「Art for Gift」(梅軒画廊／京都)
「シブヤスタイル vol.14」(渋谷西武／東京)
「禅とアートが交わる時」(THE BLEND INN／大阪)
- 2021 「柞磨祥子×高畑彩佳 Exhibition—邂逅—」(梅軒画廊)
「間を抜く、或いは」(建仁寺両足院／京都)

現在 京都芸術大学非常勤講師

◎本展出品作について作家より

数年前、出身地である香川の島の、誰もいないはずの山道にて何かの気配を感じた。
あたりを見渡すと、法面の排水口が水を垂れ流しながら静かに佇んでいた。
モルタルで覆われた山。奥の見えない細く深い孔。乾いた空気と冷たい湿気が混じり
あう場所で、人工の小さな孔で調節される地下水に万物の流転を見た。



線刻山水図 SENKOKU-SANSUI-ZU

竹内 茉莉 たけうち まり / TAKEUCHI Mari



- 1992 大阪府河内長野市に生まれる
2013 碧い石見の芸術祭 2013全国美術大学奨学日本画展 準大賞(浜田市立石正美術館/島根)
2015 高野山真言宗正寿院客殿花天井画奉納(京都)
春季創画展 入選(同16年)
創画展 入選(同16、19~21年)
2016 碧い石見の芸術祭2015 第1回石本正日本画大賞展 奨励賞(浜田市立石正美術館)
2017 大阪芸術大学大学院芸術研究科芸術制作専攻修了
第4回 続 京都 日本画新展(美術館「えき」KYOTO)
2019 京都 日本画新展 in 二条城~100人の画家・嵯峨野線を旅して~(二条城二の丸御殿台所・御清所/京都)
2021 京都 日本画新展2021(美術館「えき」KYOTO)
五人展 日本画合同個展(アートギャラリー北野/京都)

現在 創画会会友

◎本展出品作について作家より

とめどなく流れ続ける水のみち。

周りの建物や橋も、ゆっくりと時を重ねていきます。

流れも一定ではなく、速い時や穏やかな時があり、いつの間にか過ぎてきた日々の重なりに近いものを感じ、表現しました。



水路 SUIRO

竹村 花菜 たけむら かな / TAKEMURA Kana

- 1996 京都府南丹市に生まれる
2018 京都春季創画展 入選(同20、21年)
創画展 入選(同19~21年)
2019 京都花鳥館賞 優秀賞(同20年)
成安造形大学卒業制作展 佳作(大津市歴史博物館/滋賀)
成安造形大学芸術学部芸術学科卒業
碧い石見の芸術祭2019 第5回石本正日本画大賞展 入選(浜田市立石正美術館/島根)
2020 ギャラリーへ行こう 入選(数寄和/東京 同21年)
2021 筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術専攻博士前期課程修了

現在 創画会会友
京都日本画家協会会員



◎本展出品作について作家より

「翡翠」によく会う時期がありました。街のど真ん中や小さな川など思いがけない場所で出会い、風を切るように私の前を通り過ぎていきました。その姿に魅せられていつか描こうと決めていました。



田中 彩乃 たなか あやの/TANAKA Ayano

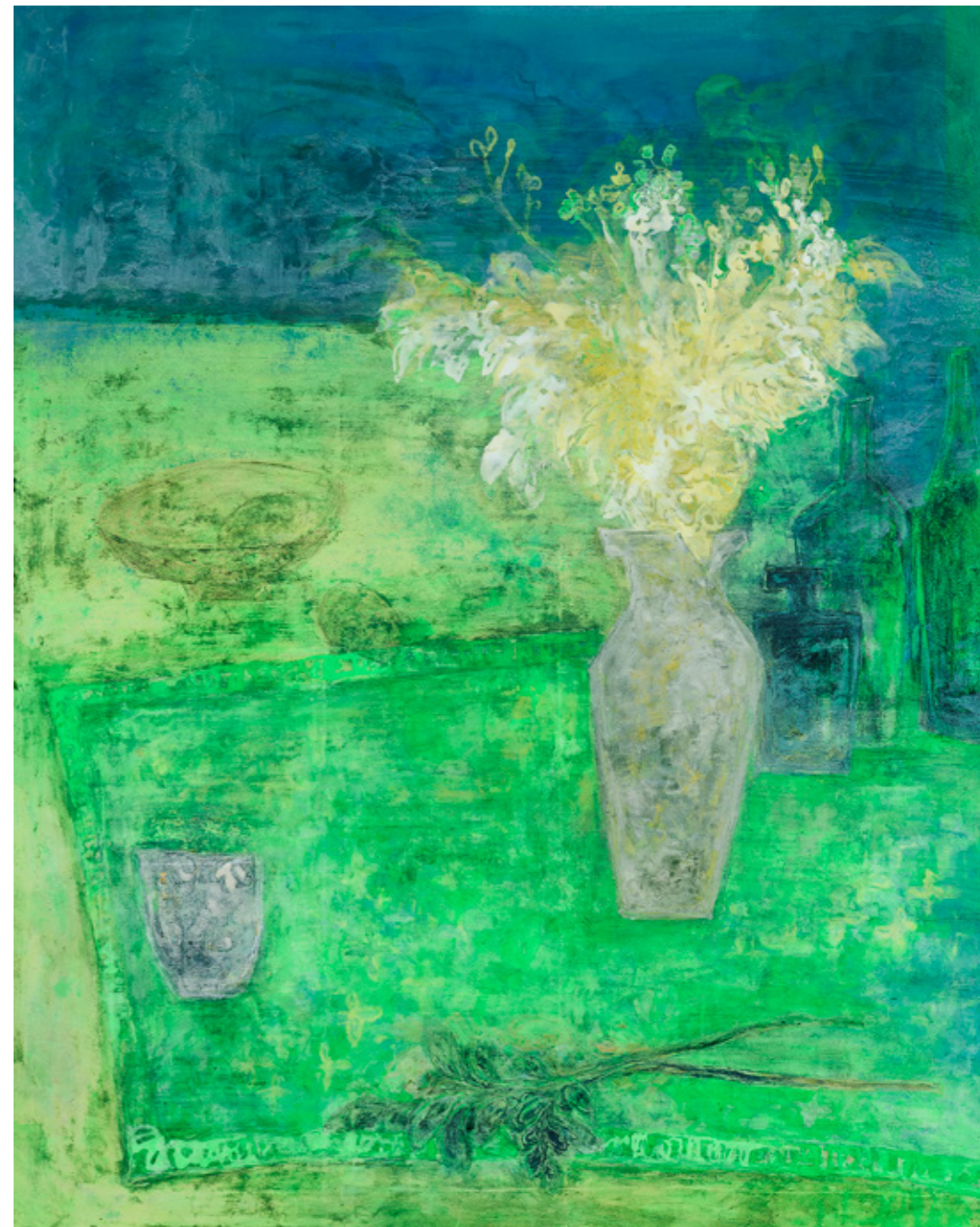


- 1990 新潟県に生まれる
2011 春季創画展 入選(同12、14、16~21年 13年春季展賞)
2012 奈良芸術短期大学専攻科日本画コース修了
創画展 入選(同13~15、17、20、21年)
2013 奈良芸術短期大学研究科修了
原展(ギャラリー恵風/京都)
2014 第1回 続 京都 日本画新展(美術館「えき」KYOTO 同15、16年)
原展(ギャラリー祇園小舎/京都)
2017 原展(京都府立文化芸術会館)
2018 笈々会展(京都府立文化芸術会館 同19年)
2019 原展(ギャラリーマロニエ/京都)
2021 京都 日本画新展2021(美術館「えき」KYOTO)

現在 創画会会友
京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より

夜が纏う闇に飲みこまれないように、花は美しく咲くのでしょう。



夜ト花 Night and Flower

西蘭 静 にしぞの しずか／NISHIZONO Shizuka

- 1990 大阪府枚方市に生まれる
2012 学生日本画作品展(ホテルグランヴィア京都 同14年)
京都花鳥館賞 優秀賞(同15年)
日春展 入選(14年奨励賞)
2013 京都教育大学教育学部美術領域卒業
2014 京都花鳥館賞展(松伯美術館／奈良)
2015 個展「光合成の部屋」(trace／京都)
2016 第7回柏原ビエンナーレ 出品(本郷地区A文化住宅／大阪)
2017 京都教育大学大学院教育学研究科教科教育専攻美術教育専修修了
2018 個展「表面」(Art Spot Korin／京都)
新日春展 入選
2019 SHIBUYA ART AWARDS 2019 入選
2020 個展「対象と図」(GALLERY GALLERY／京都)



◎本展出品作について作家より

もののかたちと空白を材料に、画面を作っています。空間の広がりやものの動き、重力や浮力といった、平面に収まりきれない事象が現れる瞬間を求めて制作しています。このかたちは、朽ちた蜂の巣。手で掲げると、天空に浮かぶ要塞のように壮大な空間を感じました。それが上空で移動する様子を想像し、大気のゆらぎを画面に留めようと試みました。



飛行体 Flying Object

野一色 優美 のいしき ゆみ / NOISHIKI Yumi



- 1998 大阪市に生まれる
- 2018 碧い石見の芸術祭2018 第4回石本正日本画大賞展 入選(浜田市立石正美術館 / 島根 同19年)
- 2019 第4回京都学生アートオークション 出品(京都芸術センター 同20年)
- 2020 第2回・第3回AGHAPCオークション 出品(アークヒルズクラブ the clubroom / 東京)
京都花鳥館賞 入選
京都春季創画展 入選(同21年)
- 2021 第20回佐藤太清公募美術展 入選(福知山市厚生会館 / 京都 横浜赤レンガ倉庫1号館 / 神奈川 板橋区立美術館 / 東京 京都文化博物館 名古屋市民ギャラリー矢田)
成安造形大学芸術学部芸術学科美術領域日本画コース卒業
若手アーティスト作品展示プロジェクト(河口湖音楽と森の美術館 / 山梨)
学生日本画作品展(ホテルグランヴィア京都)
心斎橋ギャラリービル オープニング展「nine doors」(心斎橋ギャラリービル / 大阪)

現在 成安造形大学芸術学部高田学研究室在学

◎本展出品作について作家より

「存在の在り処」をテーマに制作しました。このテーマでは、絵具の層を積み重ね、それを洗い落とす工程を繰り返すことで、層の中で対象の存在を確かめるように表現しています。

今回の作品では自分自身の日々の記憶を基に、予定が無くなってしまった虚しさと雨の音とを思い重ね、悲しげな人物の内面性を探るように描きました。



午後二時の雨音 The Sound of Rain at 2:00 pm

波賀野 文子 はがの ふみこ / HAGANO Fumiko



- 1991 神奈川県横浜市に生まれる
2013 女子美術大学芸術学部絵画学科日本画専攻卒業
2015 第79回新制作展 入選
2016 碧い石見の芸術祭2016 第2回石本正日本画大賞展(浜田市立石正美術館/島根 同17年)
2017 個展「波賀野文子 オオサンショウウオの世界展」(アートギャラリー北野/京都)
京都精華大学大学院日本画展「COCO展」(アートギャラリー北野 同18、20、21年)
京都精華大学大学院研究科展(京都市美術館別館)
学生日本画作品展(ホテルグランヴィア京都)
2018 京都精華大学大学院修了制作展(ギャラリーフロール/京都)
京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程芸術専攻修了
京都春季創画展 入選(同19~21年)
あおあお展(京都精華大学 Kara-S)
個展「波賀野文子 展 たゆたうオオサンショウウオ」(アートギャラリー北野)
京都花鳥館賞 優秀賞(同20年入選)
2019 個展「波賀野文子 展 オオサンショウウオとめぐる季節」(Gallery Daimon/京都)
2020 新規グッズデザイン(手拭い)原画採用(日本サンショウウオセンター/三重)
50人の日本画サムホール展—希望のひかり—(ギャラリー恵風/京都)
2021 第11回贈りもの展(ギャラリー恵風)
—かさね— 波賀野文子・林千草 二人展(アートギャラリー北野)
創画展 入選

現在 京都精華大学大学院芸術研究科博士後期課程芸術専攻在籍

◎本展出品作について作家より

山深い清流だけではなく、京都の鴨川など、人々の生活の身近なところにも生息しているオオサンショウウオ。その巨体と悠然とした佇まいからは、太古より姿を変えず生きてきた、しなやかな強さを感じさせる。ばちばちと火が爆ぜるかのような生命力の輝きと、凧のような静けさを併せ持った様相を描いた。



花本 鈴子 はなもと りんこ / HANAMOTO Rinko

- 1990 富山県黒部市に生まれる
- 2010 奈良芸術短期大学美術科日本画コース卒業
畝展(京都府立文化芸術会館 同12、20年)
- 2011 京都春季創画展 入選(同12~19、21年)
京展 入選(同12年)
- 2012 奈良芸術短期大学専攻科日本画コース修了
碧い石見の芸術祭2012 全国美術大学奨学日本画展 奨励賞・石正美術館賞(三隅中央会館/島根)
創画展 入選(同13、14、16、17、21年)
- 2014 第1回 続 京都 日本画新展(美術館「えき」KYOTO)
- 2016 碧い石見の芸術祭2015 第1回石本正日本画大賞展(浜田市立石正美術館/島根)
筈々会展(京都府立文化芸術会館 同17年)
- 2018 京都日本画家協会第6期展(京都文化博物館 同21年)



©本展出品作について作家より

物と物の距離、物と物のあわいの存在について、日々考えていることを形に表せるよう努めました。



かげのよこがお Other Side

松田 朋子 まつだともこ/MATSUDA Tomoko

- 1989 兵庫県豊岡市に生まれる
2010 春季創画展 入選
2012 京都市立芸術大学作品展 市長賞・山口賞
松田朋子・小林紗世子ふたり展(ヤマモトギャラリー/京都)
京都花鳥館賞奨学金2012 優秀賞
2013 中央美術学院(北京)へ交換留学
2014 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程修了
創画展 入選(同15年)
2015 第2回 続 京都 日本画新展(美術館「えき」KYOTO 同16年)
2018 雪梁舎フィレンツェ賞展 入選(雪梁舎美術館/新潟、東京都美術館 同20年)
2019 個展(Art Space-MEISEI/京都)
2021 個展(田中美術/神戸)



◎本展出品作について作家より

風に揺れる葉のざわめき、鳥の声、虫の音、自然はいつも音に満ちているように感じます。

水辺はさらにおしゃべりです。

水の流れる音、跳ねる音、草花も虫も魚も声を重ねて水面の光の中で騒いでいます。

そこには私の知らない言葉があふれています。



三木 輝 みき ひかり / MIKI Hikari

- 1996 福岡県に生まれる
2015 二科展 入選(同16年)
2020 嵯峨美術大学造形学科古画研究保存修復領域卒業
幻獣展(ぎやらりい西利 / 京都 同21年)
いろや0号展(いろやギャラリー / 山口)
犬山市国宝茶室如庵襖再現プロジェクト(愛知)
2021 嵯峨美術大学大学院芸術研究科造形絵画分野日本画修了
「酔生夢死」(SUNABAギャラリー / 大阪)
福井県一乗谷朝倉館障壁画復元プロジェクト(福井)

現在 嵯峨美術大学附属芸術センター研究員

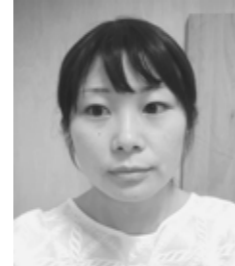


◎本展出品作について作家より

かねてより自身の制作では「醜」、つまり死を連想させるものをモチーフとして描いてきました。しかし生物個体の死は、生命循環の流れからすると大きな一つの繋がりを表す「美」として捉えており、今回は以前解剖した銀鶏のメスをモデルにして、「醜の美」を表現しました。



峯石 まどか みねいしまどか/MINEISHI Madoka



- 1989 広島県に生まれる
2012 倉敷芸術科学大学芸術学部美術工芸学科卒業
2014 広島市立大学大学院芸術学研究科博士前期課程修了
1st TERRADA ART AWARD(T-Art Gallery/東京)
第14回芸美会展(福屋八丁堀本店/広島 同15~19年)
2015 第24回奨学生美術展(佐藤美術館/東京)
「其々の景色」広島市立大学選抜作家による日本画展(新宿高島屋/東京 同20年)
2016 Flag of the West 2016(佐藤美術館、Lower Akihabara./東京 同18、20年)
2017 広島市立大学大学院芸術学研究科博士後期課程満期退学
耀画廊若手作家シリーズVol.4 個展「行」(東京九段耀画廊)
広島市立大学ゆかりの作家展(そごう広島店)
2018 小さなアートのクリスマス展(新宿高島屋美術画廊)
2019 「気更来会」(岡山天満屋ギャラリー 同20年 21年そごう広島店)
けはい けしき しんとして—古賀くらら 藤田飛鳥 峯石まどか三人展—(アートスペース余花庵/京都)
個展「移—うつし」(galley G/広島)
2020 京都 日本画新展2020(美術館「えき」KYOTO 同21年奨励賞・京都府知事賞)
2021 個展(Gallery Cafe 月~yue~/広島)

◎本展出品作について作家より

鶏にも孔雀にも似たその鳥は、顔の色を何色にも変え、初めて見るその姿に惹き付けられました。



宮本 怜子 みやもと れいこ / MIYAMOTO Reiko

- 1982 兵庫県西宮市に生まれる
- 2009 二人展(プラネット EarthH/兵庫)
- 2011 大阪芸術大学美術学科日本画コース卒業
- 2013 大阪芸術大学大学院芸術研究科芸術制作専攻修了
日展 入選
- 2016 瑛耀展(京都府立文化芸術会館/同18、19年)
- 2019 新日春展 入選(同21年)
MIKIMOTO PEARL ISLAND作品展示(三重)



©本展出品作について作家より

この作品は、私の砂漠の記憶です。楽しい、嬉しい、悲しい、様々な感情を砂けむりにも負けず前を向いて立っているラクダにのせました。



Sahara

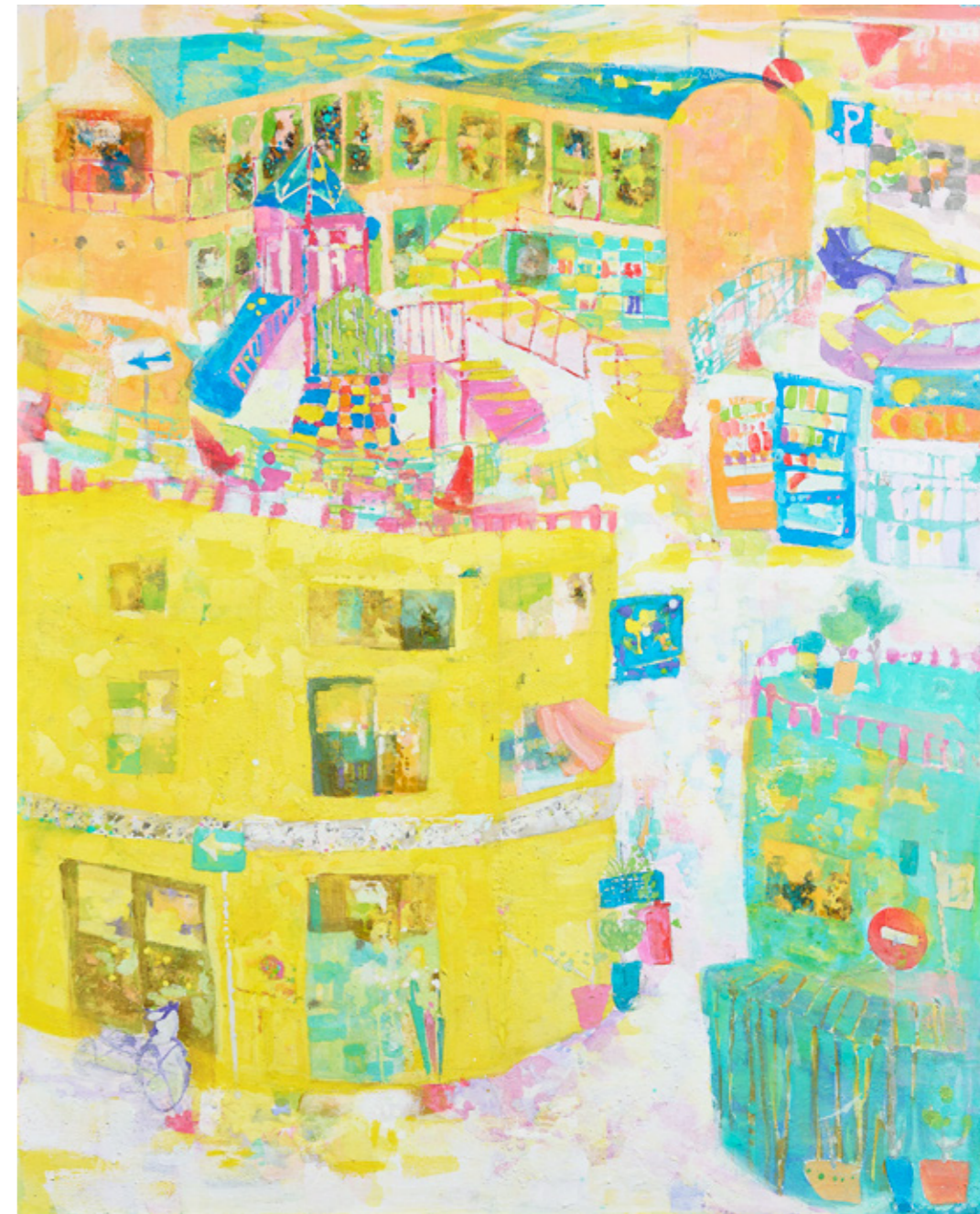
森 紗貴 もり さき/MORI Saki

- 1995 大阪市に生まれる
- 2016 碧い石見の芸術祭2016 第1回石本正日本画大賞展 奨励賞(浜田市立石正美術館／
島根 同18年)
- 2017 上野の森美術館大賞展 入選(上野の森美術館／東京、京都文化博物館 同19年)
京都春季創画展 入選(同18～21年 19年春季展賞)
- 2018 京都精華大学美術学部造形学科日本画コース卒業
雪梁舎フィレンツェ大賞展 入選(東京都美術館、雪梁舎美術館／新潟)
創画展 入選(同19、20年)
京都花鳥館賞 優秀賞
- 2019 全関西美術展 入選(大阪市立美術館)
- 2020 京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程日本画専攻修了
- 2021 京都 日本画新展2021(美術館「えき」KYOTO)



©本展出品作について作家より

消えてしまいそうな記憶を紡いで想い出の道をなぞってみる。



うたかた Fleeting

吉田 松之助 よしだ まつのすけ / YOSHIDA Matsunosuke



- 1996 兵庫県豊岡市に生まれる
2016 銅駝美術工芸高等学校日本画専攻卒業
2019 第3回新日春展 入選(同21年)
第65回全関西美術展 日本画 佳作(大阪市立美術館)
改組新第6回日展 入選(同20年)
第19回佐藤太清賞公募美術展 入選(福知山市厚生会館 / 京都、横浜赤レンガ第一倉庫 / 神奈川、成増アクトホール / 東京)
2020 京都精華大学美術学部日本画コース卒業

現在 京都日本画家協会会員
晨鳥社所属

◎本展出品作について作家より

飼育しているクワガタムシの幼虫が食べ残した餌の跡の形を利用して作品を制作しています。虫が偶然作り出す形と、画面に刷毛で色を塗った時に偶然できた刷毛跡の形がリンクしていると考え、制作しています。今回は幼虫と自分の生きてきた痕跡を描く中でそれが地図のように見えたのでmapというタイトルにしました。



推薦委員
函版

石股 昭 いしまた あきら / ISHIMATA Akira

- 1957 京都市に生まれる
1982 春季創画展 初入選(86、88、89、92、93、95、03年春季展賞)
創画展 初入選(97、05、06年創画会賞)
京都美術選抜展 京都府買い上げ(84年)
1983 京都市立芸術大学大学院美術研究科修了
1988 芸術家国内研修員(文化庁)
1989 山種美術館賞展(同95、97年)
次代を担う作家展(同91年 93年準大賞)
1999 京展 京都市美術館コレクション賞
2006 創画会会員推挙
2019 京都 日本画新展2019(美術館「えき」KYOTO 同20、21年)

現在 奈良芸術短期大学教授
創画会会員



土の声 Voice of the Soil

雲丹亀 利彦 うにがめ としひこ / UNIGAME Toshihiko



- 1966 兵庫県姫路市に生まれる
 - 1989 大阪芸術大学芸術学部美術学科卒業
 - 1998 創画展 創画会賞(同99~01年)
京都日本画家協会新鋭選抜展 京都府知事賞
 - 1999 雲丹亀利彦展(西脇市岡之山美術館/兵庫)
文化庁現代美術選抜展(同02年)
 - 2000 姫路市芸術文化賞芸術年度賞
 - 2003 兵庫県加西市文化連盟芸術文化功労賞
 - 2004 兵庫県芸術奨励賞
 - 2006 兵庫県芸術文化活動支援事業 日本画雲丹亀利彦展(兵庫県立美術館)
 - 2013 「地歩を固めた作家たち」雲丹亀利彦展(西脇市岡之山美術館/兵庫)
 - 2015 公募団体ベストセレクション美術2015(東京都美術館)
 - 2016 「エスキースからの展開」雲丹亀利彦京都現代作家展(京都府立堂本印象美術館)
 - 2018 「刻の形象」雲丹亀利彦展(三木美術館/兵庫)
 - 2019 京都 日本画新展2019(美術館「えき」KYOTO 同20、21年)
「日本画~絵日記のように」雲丹亀利彦展(瀬戸内海国立公園ホテルシーショア・リゾート/兵庫)
- 現在 京都精華大学教授
創画会会員



夜の歌 Song of Night

大沼 憲昭 おおぬま のりあき / ONUMA Noriaki



- 1954 石川県金沢市に生まれる
- 1976 大谷大学文学部卒業
パンリアル美術協会展(京都市美術館 春・秋季展毎年出品93年退会)
- 1981 山種美術館賞展「今日の日本画」(同87、89、91、98年)
- 1985 京都美術選抜展(京都市美術館 同86、89、91、98、00、02年)
- 1986 石川県作家選抜美術展(石川県立美術館 同92年)
青垣2001年日本画家展(青垣町民センター／兵庫)
- 1988 日本画の裸婦展(埼玉県立近代美術館)
- 1989 京都日本画新鋭選抜展 奨励賞(大三島美術館／愛媛 同94年)
- 1990 菅橋彦大賞展(倉吉博物館／鳥取)
京都新聞日本画賞展 優秀賞(大丸ミュージアム京都 91、92年大賞 93年招待)
- 1991 京都画壇日本画秀作展(京都高島屋、大丸京都店 同92年)
- 1992 いのち讃歌日本画100人展(大丸ミュージアム京都)
「両洋の眼」現代の絵画展(日本橋三越本店／東京 同93、95、96年)
- 1993 第12期現代京都美術・工芸展(京都文化博物館)
- 1998 第1回NEXT展(京都高島屋グランドホール 07年閉会まで毎年出品)
- 2002 第15回個展(高島屋／京都、東京、大阪 同10年)
- 2004 日本画「京の今日」展(京都文化博物館)
- 2006 第6回工筆画大展 招待(北京・中国美術館)
- 2009 「観○光」ART・EXPO—日本の美とこころ—(二条城、泉涌寺／京都、建長寺、円覚寺／鎌倉 他 2018年まで毎年出品)
- 2013 日本画こころの京都展(京都文化博物館)
- 2014 京都日本画家協会第2期展(京都文化博物館)
- 2015 京に生きる琳派の美(京都文化博物館 同16年 日本橋高島屋／東京)
- 2018 京都日本画家協会第6期展(京都文化博物館)
- 2019 京都 日本画新展2019(美術館「えき」KYOTO 同20、21年)
未景2019—御寺ART元年—(泉涌寺 同21年)
- 現在 嵯峨美術大学教授

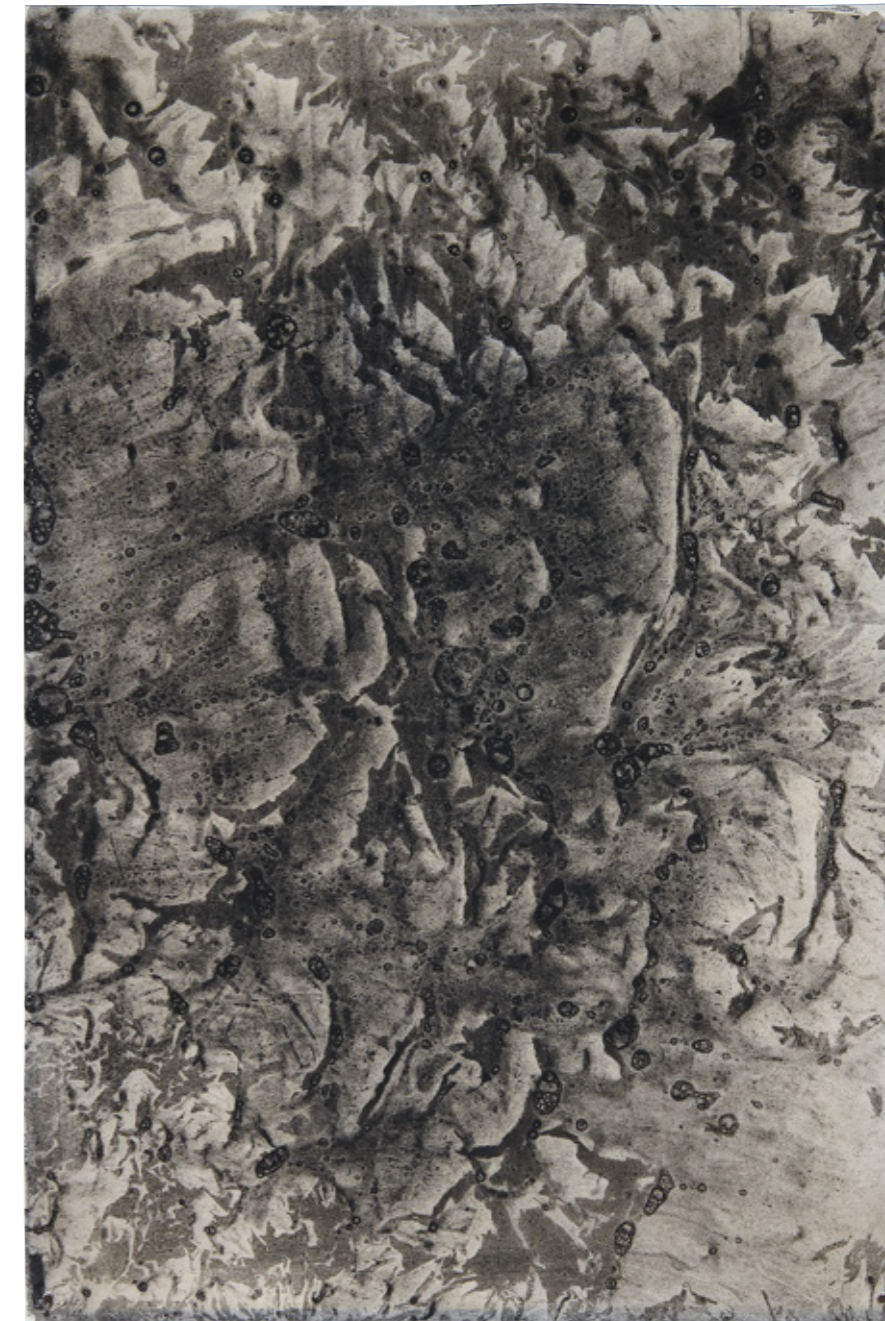


百歳華 Flowers Continue to Bloom

川嶋 渉 かわしま わたる / KAWASHIMA Wataru



- 1966 京都市に生まれる
 - 1989 京都精華大学卒業
 - 1990 日展入選(以後出品 96、02年特選)
 - 2004 京都市芸術新人賞
 - 2006 京都迎賓館作品制作
 - 2009 東方岩彩画展 東アジアにおける岩彩画の展開(上海)
 - 2011 敦煌意象・中日岩彩画展(敦煌)
 - 2013 日本画こころの京都展 京都府買い上げ(京都文化博物館)
 - 2016 琳派400年記念『琳派降臨—近世・近代・現代の「琳派コード」を巡って』(京都市美術館)
室生寺 室生山水図屏風制作
 - 2017 京都だって猫展(京都文化博物館)
 - 2018 改組新第5回日展 京都展京都市長賞
 - 2019 個展「粒であり 波である」(大雅堂/京都)
京都 日本画新展2019(美術館「えき」KYOTO 同20、21年)
 - 2020 STEAM THINKING —未来を創るアート 京都からの挑戦 アート×サイエンス LABOからGIGへ(京都市京セラ美術館 本館)
KYOTO STEAM 2020 国際アートコンペティション スタートアップ展(京都市京セラ美術館 新館 東山キューブ)
 - 2021 Lost in Translation(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA/京都)
- 現在 京都市立芸術大学教授
日展会員

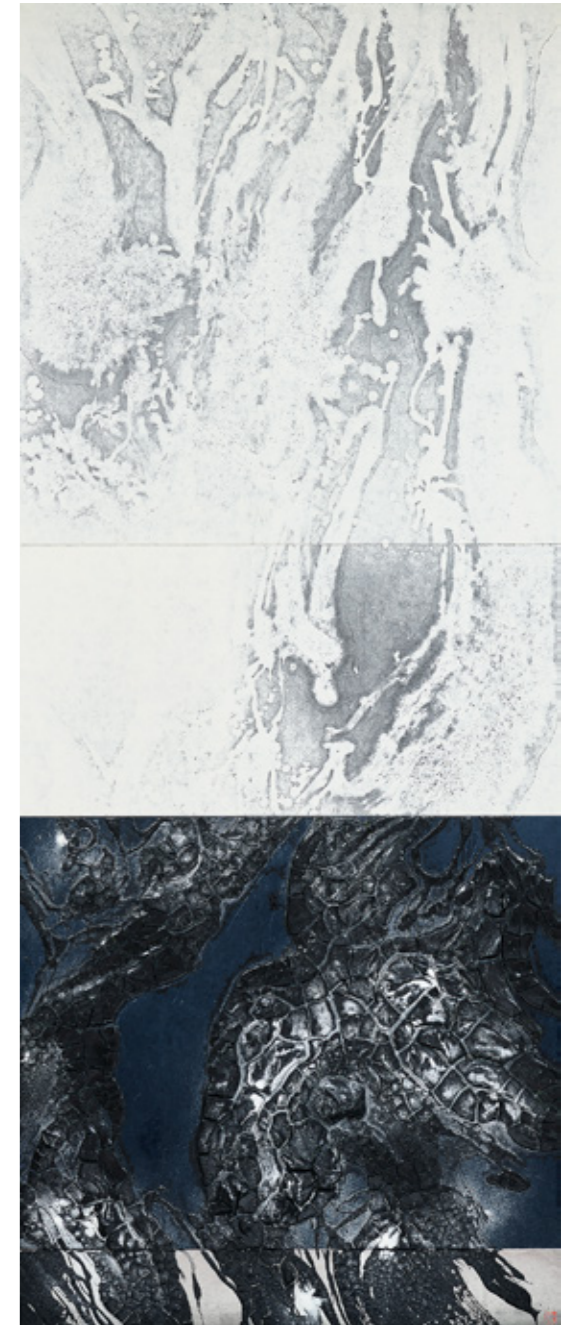


粒であり波である Wave-Particle Duality

菅原 健彦 すがわら たけひこ / SUGAWARA Takehiko



- 1962 東京都練馬区に生まれる
1987 上野の森美術館大賞展 入選(～92年 89年佳作賞)
1989 多摩美術大学絵画科日本画専攻卒業
1991 個展(東京セントラル絵画館 93年)
1993 山種美術館賞展(97年)
1994 五島記念文化賞(海外研修・ドイツ)
両洋の眼・現代の絵画(～09年 97年倫雅賞)
VOCA展(97年)
美の予感(高島屋)
1998 MOA岡田茂吉賞優秀賞
2002 墨戯(岡山県立美術館)
2003 絵画の現在(新潟県立万代島美術館)
2004 個展—山水—(日本橋高島屋)
超日本画宣言(練馬区立美術館／東京)
東山魁夷記念日経日本画大賞展大賞
2007 個展 Paradise NZ(高島屋)
2009 菅原健彦展(岡崎市美術博物館／愛知、練馬区立美術館)
秀明文化賞
2012 個展(ギャラリーためながパリ店 15、18年 東京店 13、16、20年 大阪店 14、17、21年)
Art Paris (Grand palais／パリ 13、16～21年)
2013 Brafa (ブリュッセル 16～21年)
2016 個展—淡墨流転—(高島屋)
2018 日本画制作の現場Ⅳ—菅原健彦展—(広島市立大学)
2019 京都 日本画新展2019(美術館「えき」KYOTO 同20、21年)
2021 個展—三春開花—(高島屋)
- 現在 滋賀県在住
京都芸術大学教授



大王杉 DAIOHSUGI

西久松 吉雄 にしひさまつ よしお / NISHIHISAMATSU Yoshio



- 1952 京都市に生まれる
- 1979 京都市立芸術大学美術専攻科日本画専攻修了
第4回京都日本画美術展 新人賞 海外研修派遣(京都府ギャラリー)
- 1986 美術選抜展(京都市美術館 同89、92年)
- 1992 第26回現代美術選抜展(秋田県立近代美術館他 同96年)
- 1994 第4回京都新聞日本画賞展 大賞
- 1995 第13回山種美術館賞展 優秀賞(山種美術館/東京)
- 1999 日本画の新世代展(大丸ミュージアムTOKYO/東京、他)
現代日本絵画の展望展(東京ステーションギャラリー)
- 2000 両洋の眼展(松坂屋美術館/愛知、他 同03年)
- 2010 第23回京都美術文化賞
- 2012 自然学—来るべき美学のために(滋賀県立近代美術館)
- 2014 『古の贈り物・日本画家西久松吉雄の世界』サンライズ出版
梅原猛卒寿記念—梅原猛と25人のアーティスト展(高島屋日本橋店/東京、他)
- 2015 西久松吉雄展—祈りの地・古の風景(浜田市立石正美術館/島根)
第25回秀明文化賞
- 2019 京都 日本画新展2019(美術館「えき」KYOTO 同20、21年)
西久松吉雄・綾・友花展(中信美術館/京都)
- 2020 第38回京都府文化賞功労賞

現在 成安造形大学名誉教授
創画会常務理事
京都日本画家協会副理事長



樹霊 Tree Spirit

村居 正之 むらい まさゆき / MURAI Masayuki



- 1947 京都市に生まれる
1968 青塔社入塾、池田遙邨に師事
1971 日展初入選
1975 日展特選(同90年 94、98、04、10、18年審査員 18年文部科学大臣賞)
1977 山種美術賞展(以後3回)
1984 日本画・その明日への展望展
個展「ニューヨーク・ニューヨーク」
1985 個展(和光ホール／東京 同87、90、94、00、04、10、17年)
1990 日本画・現代の視覚展(新潟市立美術館)
1991 グループ具具展(同93、95、97、99年)
1993 蓮塘会(同94~02年)
1998 グループNEXT展(同99~07年)
2007 個展「画業40年記念」(東大阪市民美術センター／大阪)
2017 個展「画業50年の歩み」(和光ホール、阪急うめだ本店9階阪急うめだギャラリー／大阪)
再生と革新~逆襲の最前線「日本画山脈展」(新見美術館／岡山、唐津市近代図書館／佐賀、蘭島閣美術館／広島、八幡浜市民ギャラリー／愛媛)
2019 京都 日本画新展2019(美術館「えき」KYOTO 同20、21年)
2020 日本芸術院賞・恩賜賞
日本芸術院会員に就任

現在 大阪芸術大学美術学科教授学科長
公益社団法人日展理事
新日春会理事
日本芸術院会員



出品リスト

	氏名	作品名	素材・技法	サイズ(タテ×ヨコ)
大賞	野上 徹	ゆらぎの光景	麻紙、岩絵具	162×162
優秀賞	沈 楠	松明・余煙	キャンバス、岩絵具	162×162
優秀賞	三谷 佳典	夜の隙間	パネル、麻紙、岩絵具、水干絵具、墨、膠	162×130
奨励賞・京都府知事賞	田口 涼一	Sound of Silver - 秋天 -	雲肌麻紙、岩絵具、水干絵具、箔など	162×162
奨励賞・京都市長賞	山部 杏奈	麒麟の花	麻布、岩絵具、水干絵具、胡粉	162×130
奨励賞・京都商工会議所会頭賞	丹羽 優太	鹿鯉瀑布図	鳥の子紙、墨、顔料、タブロー	180×90
	井関 律葉	秉燭夜遊	高知麻紙、岩絵具、水干絵具、箔	162×130
	出口 雄樹	The Eddying Current	キャンバス、顔料、胡粉、膠など	162×162
	及川 美沙	あやかしの大山椒魚	麻紙、岩絵具、墨	130×162
	大木 万由	漂	麻紙、岩絵具	162×162
	大槻 拓矢	なまくらな圏域	麻紙、岩絵具、水干絵具、胡粉、金泥	162×97
	開藤 菜々子	いろはに	麻紙、岩絵具、水干絵具、墨、箔	97×160
	梶川 友里	mol と answer.	岩絵具、ワニス	115×165
	川上 歩	道ゆき	麻紙、岩絵具、墨、色鉛筆、水干絵具	162×130
	北川 咲	寄り合う形	高知麻紙、岩絵具、水干絵具、胡粉	162×162
	喜多 美月	変顔のともたち	綿布、岩絵具、水干絵具、箔、膠	162×130
	佐久間 彩	夜光	綿布、墨、岩絵具、胡粉、顔料	162×112
	佐竹 龍蔵	Dancing in the Dawn	木製パネル、高知麻紙、岩絵具、顔料、膠	162×130
	田尾 桜	移ろい II	麻紙、墨、岩絵具	130×162
	高畑 彩佳	線刻山水図	天竺綿、白亜地、兎膠、箔下砥粉、墨、銀箔	162×115
	竹内 茉莉	水路	麻紙、岩絵具、水干絵具、箔	162×130
	竹村 花菜	翡翠の風	麻紙、岩絵具、水干絵具	130×162
	田中 彩乃	夜ト花	麻紙、岩絵具	162×130
	西園 静	飛行体	麻紙、石膏、岩絵具、顔料、アルミ泥、金泥	162×130
	野一色 優美	午後二時の雨音	高知麻紙、墨、岩絵具、鉛筆、木炭	162×130
	波賀野 文子	爆ぜる	高知麻紙、岩絵具	162×162
	花本 鈴子	かげのよこがお	麻紙、岩絵具、水干絵具、アクリル	162×112
	松田 朋子	水の声	雲肌麻紙、岩絵具、水干絵具、墨、アルミ箔、胡粉	130×162
	三木 輝	その・よ	麻紙、岩絵具、水干絵具	145×97
	峯石 まどか	○△□	麻紙、岩絵具、墨、染料	157×162
	宮本 怜子	Sahara	和紙、岩絵具、水干絵具、泥、金箔	162×130
	森 紗貴	うたかた	麻紙、岩絵具	162×130
	吉田 松之助	偶痕map	木製パネル、岩絵具、水干絵具	162×162
推薦委員				
	石股 昭	土の声	麻紙、岩絵具	116×91
	雲丹亀 利彦	夜の歌	麻紙、岩絵具	116×90
	大沼 憲昭	百歳華	麻紙、岩絵具、墨、金泥	180×55
	川嶋 渉	粒であり波である	和紙、墨	93×63
	菅原 健彦	大王杉	紺雁皮紙、雲肌麻紙、岩絵具、墨、松煙、プラチナ箔	223×91
	西久松 吉雄	樹霊	石州楮紙、岩絵具	116×91
	村居 正之	悠久	麻紙、岩絵具	117×117

選考に
よせて

表現追求に熱意と深み

太田垣 實

今回の「京都 日本画新展」は過去3回に比べて出品点数が1割強減り、33点となった。それでも美術系大学の推薦委員諸氏が新しい才能の羽ばたく機会にと積極的に推した現れであろうか、初出品が半数を超えた。出品作品も今日的な日本画状況を反映して、多様な表現がみられ、古典的な主題に基づく作品やコロナ禍の若者の内面に迫ろうとした人物作品まで多彩な作品が並び、審査する気持ちを高めさせた。

大賞から奨励賞まで受賞作品が決まってから、出品作品の作者と年齢、京都日本画新展へのこれまでの出品回数などの一覧表が示されて初めて分かるのだが、6点の受賞者の内訳は初出品者が2人、過去に出品歴のある人が4人。制作の深まりや完成度を示した作品の方が、初出の新傾向の出品を上回る結果となった。

大賞に選ばれた野上徹《ゆらぎの光景》は、過去3度の出品作に比べて今回が最も完成度高く優れていた。水面に映る樹影や水の動きなどを追求してきたが、今回は木立や空間の光、水面を渡る風や波の動きなどが何層もの

レイヤーとなって交響し、軽やかな流動感を伴ったゆらぎの光景を描出した。優秀賞の沈楠《松明・余煙》は空間を大きくとらえる力強さが魅力、もう1人の優秀賞、三谷佳典《夜の隙間》はマスクをした若い女性がうつむいて立ち尽くす上半身像。内面的な情感に迫る絵作りが印象に残る。奨励賞は田口涼一《Sound of Silver - 秋天 -》が進境を覚えさせ、山部杏奈《麒麟の花》は観葉植物のある室内光景の一こまに静謐な詩情。丹羽優太の《鹿鯨瀑布図》は鹿島神宮の神鹿と地震を引き起こす大ナマズとの対峙を、黒いストライプ状に落ちる滝水とからませて描く意表突く構成の画面に奇想性や諧謔味を漂わせて面白く見た。

(美術評論家)

「京都 日本画新展2022」選考を終えて

國賀由美子

「京都 日本画新展」は、新たな形となって第4回を迎えた。今回は33点の作品が出品され、昨年よりは若干少ない。しかし総じて技術力は向上したと見受けた。昨年は、ここになぜこの技法を採用したのか疑問に思う作品もあったが、今回は落ち着きを見せる。審査の結果は少し割れたが、それは技術力の向上にもかかわらず、満場一致で大賞に推せるような、心動かされるスペシャルな作品が出なかったことに起因するのだろう。個性がせめぎ合うような、吸引力を感じえなかったことは残念に思う。しかし1点1点、画面の向こう側に、自分の描こうとする世界に対峙する、若いつくり手たちの真摯なまなざしが見える。果てには大きな世界が広がることを願ってやまない。

大賞の野上徹《ゆらぎの光景》は、水面に映る光景が繊細にまとめられた完成度の高い作品。「ゆらぎ」の水紋が美しく奏でられる。優秀賞の沈楠《松明・余煙》は青い火煙の世界が意表を突く。青緑の空間に不可思議な現実感がある。同じく三谷佳典《夜の隙間》はコロナ災禍の現況を代弁する作品。世界地図に紙飛行機は、碎かれた夢の投影だろうか。奨励賞(京都商工会議所会頭賞)の丹羽優

太《鹿鯨瀑布図》は取り合わせに首をかしげたが、地震を起こすとされてきた鯨に、鯨を抑える要石が祀られる鹿島神宮の神使である白鹿、黒い滝は欧米思想の象徴という。まさに和の画題だが、どこかエキゾチックな印象を受ける。垂直に落ちる暖簾状の滝が、長崎で清の画人・沈南蘋に学んだ熊斐の《登龍門図》を想起させるからか。円山応挙や葛飾北斎にも、おら下がる短冊のような滝から姿を見せる鯉の絵がある。しかしこの作品に現れるのは白鹿と鯨。前回の出品作(2020)の大鯨の作品と比較すると、画面はずっとすっきりしシンプルだが、画面の下半分、鯨と滝と波との配置関係が整理されればなおよかった。

以前にも述べているが、真正面から真剣に、日本画の構想と技法に取り組む、そんな姿勢こそこれからの「京都 日本画新展」にふさわしいものであり、今回の2022でも一歩これに近づけたと思う。一方で、作り上げたものを一度壊して白紙に戻し、新たに打ち立てる営為も大切であろう。推薦委員の先生方のご苦勞を思いながら、京都発信の新しい日本画を世に出す使命を、改めて我々も肝に銘じたい。

(大谷大学文学部教授)

気と血のかよったものへの希求

野地耕一郎

おちこち
遠近の山にある木々を見ながら、その木梢の色おちこちの連なりまで美しいと感じた経験を誰しも持っているはずだ。そうした自然観照を死生観の内側から凝視して村上華岳は数々の「山水画」を描いた。だからだろうか、華岳の山水はまるで自然の木々が彼の身体の中を走る血脈のようにも感じられるのだ。体温と脈動を伴った山水画。

京都という時空間からは、そんな気と血のかよった絵が時々生まれ出でる。今度の「京都 日本画新展」の選考会場に並べられた33点の出品作中にもいくつかそんな作品があった。《ゆらぎの光景》や《松明・余煙》、《Sound of Silver - 秋天 -》などだ。

とりわけ《ゆらぎの光景》の作者は、時空間を一つの世界に描く「山水画」に惹かれているのだろうか。それは、実空間を対象にした「風景」でありながら、見る方にはイリュージョンとしての「山水」が想起されている。自然物と対峙するあくまで冷静で固定的な空間性に尽きる「風景」を写し取る「自然に倣う」という行為が、絵を描いている人間の体の中から出てくる情感と自由な視角によ

って造形される「山水」というに近しい絵だ。岩絵の具を何層にも重ねて映像化した技法は緻密で間然するところがない。もしかしたら、この作者は風景を描きながら風景の彼方にあるものを見つめているのかもしれない。木や空であり、空気であり、風であり、それらの匂いであったり、描かれていないものの存在感が迫ってくる作品だ。

《松明・余煙》もまた全体に調和を取っているようで、しかし眼に見えないものをまさぐるような心持が画面から立ち昇ってくる。自然とは何か、それを感じて描くとはどういうことなのか、そもそも絵とは何なのか。答えのないそんな問いを、この人はずっと自分に問い続けてきたのだろうか、きっと。

ただ、例年いくつか顕れる洒落と実験精神に満ちた作品が少なく物足りなかった。狩野元信と迷信をスリットさせた《鹿鯉瀑布図》、コロナ禍の孤独な心性を思わせる《夜の隙間》や《麒麟の花》に革新への焰ほむらを見いだせたのがせめてもの救いだった。

(泉屋博古館東京館長)

「京都 日本画新展」の継続を願う

畑 智子

コロナ禍の様々な事情によって、今回は推薦された日本画の数が昨年の39作品から33作品に減り、審査も京都新聞社内において開催された。長引くステイホーム状態の中で、作家も物理的、精神的につらい状況が続いているものと思われる。しかしながら出品された作品の中には、自身を見つめる好機として作品に取り組んだ姿勢もうかがえる。

審査は通年通り、最初は1人10票の投票から始まった。この第1回目の投票で選考委員全員の6点を獲得したのが、大賞の《ゆらぎの光景》である。抽象画のようにも見えるが目をこらしてよく見ると木立が見え、空が見え、水面が見える。その中を通り抜ける優しい風も感じられ、いつの間にか爽やかな高原に立ち、豊かな自然に包まれているような感じにとらわれる。いくつもの重なる層がどのように構成されているのか、委員の間でも正解は見いだせなかった。

奨励賞・京都府知事賞を受賞した《Sound of Silver - 秋天 -》は、写真の反転技法であるソラリゼーションを思い起こさせ、工芸的手法を用いた銀箔が目を引いた。日本画的であることを強調するために単に装飾的に金箔や銀箔を使う傾向もある中で、この作品の箔の使い方は効果的である。銀色が秋の空気の

冷たさと透明感を、焼き色を付けたというほのかな茜色が深まりゆく秋の空を醸し出している。

コロナ禍の心痛む状況を伝えてくれるのが優秀賞の《夜の隙間》。これは作家自身の姿なのか、それとも苦しむ友人や家族の姿なのだろうか。

選考委員の中には、作品に対して「どこかで見たことのある」「既視感がある」として作品を否定する声も聞かれた。「日本画新展」である以上、「新しさ」が必要だと。ただ何をもって「新しい」と言えるのか、委員によってその捉え方は異なるように思われる。刺激を与えてくれる優れた作品から模倣という手法で学ぶことも必要であり、若い作家はそのような模索の時期を経て次第に自身のスタイルを確立していくものだろう。その途中経過において、「まだ見たこともない新しさ」だけを求めるのは難しいのではないか。

現在のような状況においても、この「京都 日本画新展」が中止されずに行われたことに大きな意義を感じる。こうした展覧会は続けてこそ意味がある。運営上厳しい中でも開催を決断してくださった主催者の方々にも御礼を申し上げたい。

(京都文化博物館特任学芸員)

期待を込めて

森口邦彦

総作品が醸し出している静かな落ち着いた雰囲気は、出品点数が少なくなったせいだろうか、ワクワク感に欠ける、とはじめに感じさせてしまった。

それぞれに丁寧な仕事ぶりなのだが、気持ちの乗ったと言おうか、気合いの入ったものを見いだせなかったのは誠に残念だった。

推薦委員の方々の大変なご努力で、半数以上の作者が初出品であると受賞者選考の作業が終了してから知ることになったのだが、いま一つ新鮮味に欠け、力感がない作品群となったのは、長引くコロナ禍による社会全体に漂う不安感のせいかもしれない。私にとって今回の作業はとてもこれを楽しむといった心境には至らなかった。

その中で私が一番好ましく思ったのは、奨励賞・京都市長賞となった《麒麟の花》だ。透過する光が、日本画材で見事に表現されている。対象を見事にとらえた描写力は確かだ、作者の視線とともにゆっくり流れる時間の経過すら感じさせる。この時期じっくりと日常を見つめ、考え直すことの大切さを伝えてくれている、何とも心地よい体験をさせてもらった。

大賞となった《ゆらぎの光景》は、その出来栄の繊細さの故か、弱さも見せながら、具象性がその描写という束縛から解き放たれ、さらに自由な表現世界へと昂揚する不思議なさまに魅力を感じた。この点をもっと強く押し進めて絵画ならではの平面に積極的にたどり着いてほしいとの大いなる期待を込めて評価させてもらった。

《松明・余煙》も自然の描写をベースにした作品だが、イメージはまだまだ限りなく深化させることができそうで興味を持った。ただ油彩画のような筆致に個人的には多少こだわりを感じたが、それほど問題にはならなかった。もう一つの優秀賞《夜の隙間》は、体験真っ最中であるパンデミックという未曾有の不安にたじろぐ我々の姿を写している点に惹かれた。光を吸収する日本画材ならではの表情は魅力的だが、人物の背景の壁紙のような部分の取り扱いにいま一つ説得力を欠いてはいないか、惜しまれる点である。

(友禅作家、重要無形文化財保持者)



発行日 2022年2月11日
発行 京都新聞
制作 ニューカラー写真印刷株式会社

